

【随筆】

日本で一番遅いサクラが咲きました

住 吉 尚

(釧路支部)

春たけなわと言う季節ですが皆さんお元気ですか？新型コロナウイルス感染症ですっかり萎縮していませんか？いつまでも萎縮してばかりではられません。山菜の季節ですし、釣りも本格的にやる季節です。そしてタンチョウを始めとする野鳥の繁殖シーズンでもありますね。山菜を採られる人は教えられなくてもないでしょうが、クレソンやギョウジャニンニクのようにそのまま調理して食べられるものと、あく抜きが必要なものがありますね。昔は木灰がそこら中にありましたから、簡単に木灰であく抜きをしたものでした。最近のラジオ放送では、あく抜きは米のとぎ汁や米ぬかでやると言っていました。現在の米は無洗米でなくてもとがないし、2～3回水を変えるだけです。なので米のとぎ汁もありません。そこで私が最近やっているあく抜きの仕方をお話ししましょう。

山菜ではありませんが、先日妻が大きなタケノコを買ってきました。釧路ではタケノコを上手に処理できる人が少ないのか、生きの良いタケノコがなかなか手に入りません。まず、できるだけ切り口が新鮮なものを選びましょう。これだけでエグミが大きく違いますから。買ってきたらできるだけ早く茹でてしまいましょう。タケノコが入る大きさの鍋を用意します。タケノコの先端部分はどうせ食べられませんから、私は適当なところから切って捨てます。タケノコはたいていどちらかに曲がっていますから、曲がった背の部分に縦に切れ目を入れます。こうしてタケノコを鍋に入れるのですが、先に鍋に水を入れておきます。この水に小麦粉を一掴み入れて良く溶かします。麦粉なら何でも構いません。私は目の前にあったてんぷら粉を使いました。こうしてからタケノコを入れ、浮き上がらないように重しを載せて火にかけます。ここでの注意点ですが麦粉は必ず冷たい水に、そして良く溶かしておくことです。沸騰したら火を弱め10分ほど煮たら火を止め、そのまま冷えるまでおいてから調理をします。この麦粉を使う方法はワラビでも良いと言うことでお手軽ですよ。タケノコの煮物にはワカメとか竿前の若い昆布などを一緒に煮るのが定番ですね。で



庭のギョウジャニンニク

もタケノコとワカメなどを一緒しておくと、ワカメや昆布が溶けてどろどろになりますからご注意ください。

ギョウジャニンニクには熱狂的なファンがいますが、私は焼き肉の付け合わせなどで一度に数本程度食べるだけで充分です。それで庭に植えてあるギョウジャニンニクだけで、山に採りに行かなくても充分間に合います。ただギョウジャニンニクは庭に植えても増えるのが遅いので、植えたギョウジャニンニクを食べて、来年も食べようとなると相当な忍耐と努力が必要です。それでもと言う人は親株に適当な肥料をやることです。1株から2本もの花が立ち、たくさんの種が得られます。これを蒔いて増やすのですが、蒔いてから食べられるようになるのには6年もかかります。がんばれますか？ここでも注意点があります。種は乾かしてはいけません。採り蒔きと言いますが、種を採ったらすぐ蒔くことです。ギョウジャニンニクの種には乾燥すると発芽しなくなるという性質があるからです。種には植物によっていろいろな性質があり、乾燥して長持ちする種もあれば、乾燥すると死んでしまう種もあります。さらには日が射す所で発芽する種もあり、完全に暗い所（土をかぶせる）で発芽する種もあるのですが、ギョウジャニンニクの種は光を嫌うので十分な被覆をすることが条件です。

さて、道路わきの芝草の緑が増えて、ゴールデンウィークになりました。例年だとゴールデンウィーク突入となれば、みんな浮かれて出歩いたものですが、今年は新型コロナウイルスによる外出自粛で息が詰まりそうですね。郊外を走っていても道路の電光掲示板には「不要不急の外出は控えましょう」と出ています。私の外出は全くの「不要不急の外出」にあたるでしょうから、気が引けてしょうがありません。首都圏では3密を避けて海へと言えば、皆が海へ出かけるので大渋滞が発生するとか。大都市では息抜きでさえ大変な気遣いが必要なのでしょうね。ここ道東のゴールデンウィークと言えば、桜は未だ、

海は寒い、とすることになりますから、出かけるのは買い物ぐらいなのでしょうね。でもここに人が集中しては困りますね。とは言え首都圏とは大違いです。こんな違いを無視しての全国一律に外出自粛を要請すると言うのはどうなのでしょう？

こんな中ですが、この時期タンチョウは抱卵中ですから見えるのは1羽単独個体だけです。たまに2羽で行動しているタンチョウを見ると、足元にヒナがいないか？気になって観察するのですが、5月13日現在、私の観察では未だヒナは見ていません。私がヒナを見ることができるのは、ゴールドウイークが終わってしばらくしてからでしょうか。タンチョウより産卵が早いオジロワシは、もう巣にヒナを置いて2羽でハンティングをしているのが見えます。春の早い時期にはまだ木の葉が出ていませんから、意外な場所に大きな巣が見られることがあります。森の中でもひときわ大きな大木に巣をかけることが多いのですが、中には貧弱な林の特に大きくもない木に巣をかけることがあり、最近ではこんな巣があちこちで観察されるようになりました。こんなためでしょうか、最近ではオジロワシの個体数が目立って多くなっているような気がします。ただワシとタンチョウは食うものと食われるものに関係にありますから、どちらを応援するか？微妙ですね。タンチョウの成鳥はワシに食われることはありませんが、タンチョウのヒナにとっては最も恐ろしい相手と言っても良いでしょう。



オジロワシの巣

さて、外出しないとすれば庭いじりですね。でも釧路ではあまり早くからやっても良いことはありません。野菜の種を蒔くのでしたらサクラが散ってからでしょう。早くても良いのは、エンドウ豆です。これは寒さに強いので霜に当たっても平気です。後はゆっくり。葉物野菜は芽が出てから寒さにあたるとトウが立ってしまいます。



我が家の小さなチシマザクラ

ビオラを買ってきて庭に植えましたが、庭で勝手に育ってきたビオラにすぐ追いつかれてしまいます。コロナ騒ぎにかかわらず、庭も花盛りになるでしょう。昨年植えたチシマザクラが去年は5月5日に花が咲きましたが、今年は9日でしたから、少し昨年より寒いのでしょうか。釧路気象台発表では今年のサクラの開花は根室より遅く、稚内とともに11日だったとか。釧路では海岸から離れているほどサクラの開花が早いので、こんな違いが出てくるのです。我が家のこのチシマザクラとは言え、今は小さな木でもあつという間に大きくなり、手に負えなくなる可能性もありますから、木を植えるのはよほど考えてからにした方がよさそうですね。

そうこうしている内にゴールドウイークは何事もなく終わりました。私は70回近く子供の日を経験してきていることになるのでしょうか。そして永年、動物園で仕事をしていた関係もあり、一年で5月5日子供の日には特別な思いがあります。「良い天気でありますように！」とか「子供たちが楽しい一日を過ごせますように！」とか、いつも祈るような気持ちでこの日を迎えたものです。もちろんですが、天気が悪い日も何回も経験してきました。でも言い方は悪いのですが、今年のようなこんなにショボイ子供の日は、私の人生では初めてです。悪性の伝染病のせいとは言え、大人はもちろんですが、子供たちには大変なストレスなのでしょうね。とすることで明るい話題を！

5月1日に初めてモンシロチョウを見ました。3日は気温が大変高かったせいもあり、あちこちでモンシロチョウが飛んでいるのが観察できました。郊外の林にはコブシの花がもう満開です。そして5月5日に初めてエゾヤマザクラの花が咲いているのを見ました。別保から坂を上って昆布森分岐に至る道路の両側に、あまり大きくないエゾヤマザクラの木が点々とあります。このサクラがちらほら咲いているのが見えました。この日は天気が良かったのですが風が強く、体感的にはあまり暖か

くは感じられない一日でした。ヤナギが薄い緑色になり、カッラは新芽が赤いので花が咲いているように見えて、美しい時期です。もうカラマツもうっすらと緑がかってきましたから、森が新緑に染まるのももうすぐです。林の下生えではフクジュソウはもう終わりに近く、代わってエゾエンゴサクやキバナノアマナが咲き始めました。春一番のフクジュソウなどは、舐めるだけの口を持ったハエが主な受粉相手です。でもこれから咲く野草の多くはマルハナバチなどの長い口を持った昆虫が相手ですから、花も複雑な形をしています。花ではありませんがこの時期のウバユリの葉は葉脈が赤褐色で大変美しい葉をしています。ところでエゾエンゴサクとかウバユリとか、何でこんな名前なの？と思いませんか？調べてみました。蝦夷延胡索と書き、蝦夷はもちろん北海道のことで、主に北海道にある延胡索の意味で、延胡索は中国名なのだから。ではウバユリはといえば、姥百合と書き、花が咲くときには葉がないことが多いので、「葉がない」を「歯がない」とかけて姥（おばあさん）の百合と言うのだそうです。私は子供の頃「ウバ」を乳母だと思い、花が咲いて種ができるころには球根（親）がなくなることから、乳母が必要になるのかな？とっていました。キバナノアマナは花が黄色いので黄花で、アマナは同じユリ科のチューリップ属にアマナと言う植物があり、これに近い植物で黄色い花が咲くのでこの名が付いたとありました

が、私が調べた植物図鑑には「キバナノアマナはアマナにはあまり近い植物ではない」とありました。昔はエゾエンゴサクもウバユリも食用として利用されていたのだそうです。ところで、私が調べた植物図鑑はといえば、牧野富太郎の日本植物図鑑で、皇紀2600年記念出版（昭和15年）と書いてある初版本です。父から受け継いだのですが、私が子供の頃より見続けたためでしょう、もうボロボロです。でもこの色のついていない線画の図鑑を見て育ったためでしょうか、現在主流の写真による図鑑は苦手です。



エゾエンゴサク



ウバユリの新芽

(現代漢詩)
 無病息災起源祭
 豊穡大漁付託神
 時変化拜金手段
 疾病流行即中止

(都々逸)
 新進気鋭の
 開業獣医
 蹄病治療は
 オンライン
 腰痛知らずで
 涼しい顔

偽憂乳ぢい (雄武町)

(句題) ウイルス禍か

「梅雨寒や
 文明傲慢
 ウイルス禍」

「新生活様式
 夏日も檻かごの
 ウイルス禍」

「ウイルス禍
 自粛ストレス
 酷暑かな」

(室蘭市 白波瀬 稔歳)